

Quality and safety

品質と安全

主なSDGsとの対応関係



OUR APPROACH

私たちは国内外のグループ会社18拠点でISO9001の認証を取得し、継続的に品質改善に取り組んでいます。安全面では、各生産拠点に安全衛生事務局を配し、CSR推進チームがそのマネジメントのセンターとなり、本社と生産現場が一丸となって労働安全衛生活動に取り組んでいます。

また、私たちがサポートいただいている委託先の品質・安全に関する責任についても全うするため、委託先の自主性を尊重しつつ、品質パトロールや貸与設備の安全立会いなどを積極的に支援することで自社グループ生産拠点外での事故・トラブルの未然防止にも努めています。

これからも私たちはお客さまから一層信頼いただける企業を目指して、社会規範を遵守し、さらなる品質・安全の向上に努めていきます。

「今のままで東洋アルミ品質を担保できるのか？」を検証 品質向上のため新たな取組みに着手

各分野でより高品質なアルミ素材が求められる中、2020年度から自主品質監査を開始し、過去のクレームの改善策が適切かを社内検証するしくみを整えました。また事業所間で品質保証体制を相互診断する制度も開始しています。2020年度は残念ながら重大品質クレームが1件発生しましたが、品質追求に終わりはないと考え、今後も一層、品質と顧客関係性の向上に努めていきます。



災害ゼロは恒久目標

安全が全てに優先することを再度、意識付けていきます

安全は全てに優先します。2020年度は残念ながら、休業災害が2件発生しました。一度安全が損なわれると、その環境下で働く方の心理的負担が大きくなると危惧しています。災害ゼロは不変の目標ですが、従業員の意識付けや訓練を繰り返し、横の連携も図りながら継続して取り組みたいと思います。2019年度より取り組んでいる緊急事態対応強化の一環により、今年度は全事業所で「レジリエンス認証」の取得を目指します。



東洋アルミエコープロダクツ(株)
滋賀工場工作室での穴あけ加工

Practice case

CSR重要課題実践事例

case 01 重大品質クレームの削減 品質保証体制の充実

品質保証ユニット加工品チームのメンバーが自主的に他製造所の状況を相互に監査し、指摘事項や好事例の水平展開、情報共有の迅速化を図りました。また、各生産拠点の品質保証体制診断を実施することで、それぞれの強み、弱みをレーダーチャートの形で可視化して、比較し、互いの改善を促すことも行いました。海外事業所においては、アンケートなどを通じて、東洋アルミグループの品質保証体制を強化するために注力ポイントを伝え、東洋アルミグループ全体の品質保証体制を向上させています。



八尾製造所 品質保証体制診断の様子

Topics 顧客とのシナジー効果

素材箔事業で発生したクレーム案件に対して、品質保証部門と製造部門、営業部門が協働して原因の究明に努め、積極的にお客さまの現場へ足を運び、仮説を立てて改善を繰り返した結果、当社の品質の安定を図ることができたと同時に、お客さまとの信頼関係を構築することができました。

case 02 休業災害、不休業災害、火気事故災害の削減 巻き込まれ事故防止への取組み強化

数ある労働災害の中でも、生産設備への巻き込まれ事故が、当社にとって最も重大なリスクのひとつですが、2020年度は2件の巻き込まれ事故が発生しました(いずれも休業災害)。事故発生を受けて、即時に全事業所でハザード(危険源)を抽出し、その対策を拡大させています。事故の発生した事業所においては、特に念入りな見直しを行いました。事故要因にはさまざまなものがありますが、あらためて安全教育の徹底を図り安全レベルの向上に努めていきます。



生産設備への全面カバー設置による侵入防止策

Topics 体感研修装置を使った安全研修

コロナ禍で実地研修の開催が困難な中、蒲原製造所において体感研修装置を用いた教育を実施しました。八尾製造所にあった体感設備を参考に蒲原製造所で製作したもので、自事業所のみならず、茅ヶ崎製造所、群馬製造所にも貸し出して、研修を行い、若手従業員を中心に、安全行動の大切さを学びました。



ヘルメットの有無による落下衝撃吸収体感



ゴムホースが回転物に巻き込まれる体感